

弥生時代後期竪穴住居の研究（3）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

前回の報告では川崎市内における竪穴住居の集成を行い、住居の属性について、分析・検討を行った。今回は横浜市内における竪穴住居の集成と分析を行い、特徴の把握を行うこととする。今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる検討結果に基づき、戸羽が行い、分布図の作成は新開が行った。

横浜市内における竪穴住居跡の特徴

帰属時期別住居軒数

帰属時期：今回集成した竪穴住居跡711軒の帰属時期は後期：542軒、庄内併行期：117軒、後期～庄内併行期：16軒、不明：36軒である。今回、分析の対象とした竪穴住居は確認件数の大半を占める、後期および庄内併行期に帰属するものとした。

住居形態など

平面形態：後期の711軒中、最も多いのは平面形態が隅丸（長）方形362軒で、以下楕円形45軒、（長）方形25軒、円形6軒となる。平面形態不明としたものは104軒である。庄内併行期では117軒中、隅丸（長）方形が104軒、楕円形5軒、（長）方形が2軒となる。平面形態不明としたものは6軒である。後期・庄内併行期ともに、短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）が散見される。

長短率：長短率は住居の長軸の数値を短軸の数値で除し、それに100を乗じたものである。値が大きくなれば、長軸短軸の差が大きくなり長方形に、小さくなれば正方形に近づき、最低の値は100となる（弥生時代研究プロジェクトチーム1995）。後期で算出できたのは242軒で、基本統計量は最大149.1、最小61.1、平均112.6、中央値111.5という値を示した。庄内併行期で算出できたのは74軒で、基本統計量は最大140.0、最小81.3、平均109.4、中央値108.9という値を示した。

方形指数：方形指数を算出可能な住居跡を対象とした。後期は230軒が該当し、方形指数20～30未満が53軒と最も多く、次いで40～50未満の42軒、30～40未満の40軒と続く。以下60～70未満が25軒、50～60未満が23軒、10～20未満・70～80未満が16軒、0～10未満が9軒、80～90未満は5軒、90～100未満は1軒である。庄内併行期では73軒が該当し、方形指数50～60未満が22軒、と最も多く、40～50未満が18件、60～70軒が11軒と続く。以下、20～30未満が7軒、30～40未満が6軒、70～80未満が5軒、10～20未満・80～90未満がそれぞれ2軒である。

主軸方位：主軸を計測可能な住居跡を対象とした。北東方向（N-○°-E）または北西方向（N-○°-W）を0～90°の間で角度を計測し、10°ごとに集計を行い、グラフ化した。結果は第6図に示す。円が角度を、軒数を各角度の軸で示している。後期で北東方向を主軸とする住居跡は77軒あり、その内訳は、0°以上～10°未満が12軒、10～20°未満が11軒、20～30°未満が10軒、30～40°未満が8軒、40～50°未満が6軒、50～60°未満が9軒、60～70°未満が3軒、70～80°未満が6軒、80～90°未満が12軒である。北西方向を主軸とする住居跡は311軒あり、0°以上～10°未満が11軒、10～20°未満が24軒、20～30°未満が39軒、30～40°未満が45軒、

40～50°未満44軒、50～60°未満が53軒、60～70°未満が43軒、70～80°未満が32軒、80～90°未満が20軒である。また、真北(0°)を主軸とする住居跡は3軒、南東方向を主軸とする住居跡は50～60°未満が1軒、60～70°未満が1軒確認されている。庄内併行期で北東方向を主軸とする住居跡は12軒で、0°以上～10°未満が1軒、10～20°未満が1軒、20～30°未満が3軒、50～60°未満が1軒、60～70°未満が3軒、70～80°未満が1軒、80～90°未満が2軒である。北西方向を主軸とする住居跡は91軒で、20～30°未満が5軒、30～40°未満が7軒、40～50°未満20軒、50～60°未満が20軒、60～70°未満が22軒、70～80°未満が13軒、80～90°未満が4軒である。

主柱穴：住居の主柱穴本数が確認できた遺構について集計した。なお、軒数には柱穴配置により、本数が推定可能な遺構を含んでいる。後期では278軒中、主柱穴4本のものが275軒とほぼ99%の割合を占めている。庄内併行期では109軒中、主柱穴4本のものが103軒と約95%の割合を占める。

地形と立地

分布する地形面：後期、庄内併行期ともに台地もしくは丘陵に分布する。

水系：後期では住居跡414軒中、鶴見川水系に286軒、帷子川水系に68軒、芦谷川水系に34軒、柏尾川水系に26軒分布する。庄内併行期では住居跡112軒中、鶴見川水系に77軒、境川水系に20軒、帷子川水系に12軒、柏尾川水系に2軒、帷子川・大岡川水系に1軒分布する。

住居付帯施設

炉跡：後期では542軒中362軒で確認されている。その内訳は地床炉338軒、枕石炉16軒、枕粘土炉7軒、粘土板炉1軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は77軒ある。庄内併行期では117軒中93軒で確認されており、その内訳は地床炉84軒、枕石炉8軒、その他1軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は11軒である。

入口穴・梯子穴：後期では124軒で入口穴が、41軒で梯子穴が確認されている。庄内併行期では61軒で入口穴が、2軒で梯子穴が確認されている。

貯蔵穴：後期では268軒で確認されている。そのうち周堤を有するものは54軒、複数基あるものは32軒である。庄内併行期では72軒で確認されており、そのうち周堤を有するものは54軒、複数基あるものは32軒である。

周溝：後期では、全周するものが170軒(34.9%)、部分的に存在するものが114軒(23.4%)、存在しないものが203軒(41.7%)、不明が224軒である。庄内併行期では117軒中、全周するものが7軒(6.0%)、部分的に存在するものが10軒(8.5%)、存在しないものが56軒(47.9%)、不明が44軒(37.6%)である。

住居廃絶など

拡張：後期では63軒で確認され、そのうち2回以上拡張されているものは9軒ある。庄内併行期では、24件で確認され、そのうち2回以上拡張されているものは2軒である。

焼失：後期では44軒で確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは27軒である。明神台北遺跡、E5遺跡、北川貝塚、No.17遺跡、八幡山遺跡、北側表の上遺跡では一つの遺跡から2～9軒見つかっている。庄内併行期では24軒で確認されており、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは22軒である。北側表の上遺跡では52軒中、22軒が焼失住居である。

埋没過程：大半が自然作用による埋没であるが、後期で人為的に埋め戻されている住居が10軒、庄内併行期で2軒確認されている。後期では宿根西遺跡5軒と集中している。

出土遺物

遺物：出土遺物で主体となるのは土器類、次いで石器類である。ここでは特徴のある遺物を出土した住居跡

を列挙する。

後期：牢尻台遺跡7号住居址：ミニチュア・土製勾玉、芹が谷四丁目遺跡第1地点第2号住居址・第8号住居址、同遺跡第2地点第8・9号住居址、関耕地遺跡11・45・49号住居址、北側表の上遺跡74号住居：ミニチュア、関耕地遺跡11号住居址：ミニチュア・土製勾玉・管玉、芹が谷四丁目遺跡第1地点第4号住居址：ミニチュア・手焙り、明神台遺跡（B・C・D区）Y4号住居址、仏向遺跡・仏向貝塚10号堅穴住居、八幡山遺跡Y15号住居：小型土器、関耕地遺跡65号住居跡：甌、No.17遺跡YT-2：甌・勾玉・土玉・有孔円盤、同遺跡YT-3：甌・勾玉・有孔円盤、関耕地遺跡63号住居址：手捏ね土器、下田西遺跡Y-1号住居址、舞岡大原遺跡9・10号住居址、笠間中央公園遺跡19号住居址：塊、同遺跡20号住居址：塊・ミニチュア、小机醫王山遺跡住居址1：無頸壺、北側表の上遺跡23号住居：土器蓋？・ミニチュア、宿根東Y7a住居：台付鉢、明神台北遺跡N Y6・19号住居址：横刃形石器、四枚畳遺跡Y-8号住居址：軽石、同遺跡Y-9号住居址：軽石・くぼみ石、同遺跡Y-5号住居址：軽石・鉄鎌・棒状鉄器、関耕地遺跡3号住居址：有頭石錘、No.17遺跡YT-6：軽石・鉄鎌・勾玉、八幡山Y10・Y18・Y19・Y20号住居：鉄斧、北側表の上遺跡83号住居：刀子・釘、同遺跡108号住居：刀子または太刀片、明神台遺跡A地区A-6号・A-9号・A-23号住居址、明神台北遺跡N Y12号住居址、仏向遺跡・仏向貝塚22号堅穴住居、関耕地遺跡24・43・46号住居址、No.15遺跡YT-4・5号住居、No.17遺跡YT-4号住居、北側表の上遺跡：土製勾玉、No.17遺跡YT-6号住居：軽石・鉄鎌・土製勾玉、明神台北遺跡N Y11号住居址：磨製石鎌・土製勾玉、舞岡大原遺跡1号住居址、北側表の上遺跡：土玉、北側貝塚南遺跡：土器片錘、四枚畳遺跡Y-11号住居址、関耕地遺跡12号住居址：土製円盤、釧迦堂遺跡2地区3号住居跡：有孔土製円盤、仏向遺跡・仏向貝塚8号堅穴住居：土製勾玉・土錘、関耕地遺跡17・97号住居跡紡錘車、北側貝塚南遺跡：剥片穂摘具？・土製円盤・土器片錘、北側表の上遺跡27号住居：土製勾玉・ボタン上製品、明神台北遺跡N Y14号住居址、仏向遺跡・仏向貝塚23号堅穴住居：ガラス玉、権田原遺跡B Y15：勾玉

庄内併行期：牢尻台遺跡10号住居址：塊、下飯田林遺跡20号住居址・北側表の上遺跡66・88・89号住居址：ミニチュア土器、北側表の上遺跡2a号住居：小型土器・紡錘車、同遺跡3号住居：小型土器、同遺跡19号住居：舟形土製品、同遺跡90号住居：手焙形土器、同遺跡22・61号住居：甌、同遺跡92・99号住居跡：紡錘車、同遺跡8号住居：鉄滓、下飯田遺跡10・12・19・21号住居址：軽石、明神台北遺跡N Y7号住居址：銅鎌・土製勾玉、同遺跡N Y15号住居址：土製勾玉・ガラス玉、仏向遺跡・仏向貝塚15号堅穴住居：土製勾玉、北川貝塚南遺跡3・5号住居：土製円盤、同遺跡4号住居：土器片錘、北側表の上遺跡6a住居：土製品・土玉、同遺跡7号住居：土製勾玉、同遺跡22号住居：土製丸玉

まとめ

横浜市内における弥生時代後期および庄内併行期の住居について、集計データをもとに定量分析を行った。その結果を踏まえ、傾向をまとめておく。

- ・住居の帰属時期は後期の割合が高く、庄内併行期には減少する。
- ・方形指数は後期では20～50°未満前後に集中して分布する。庄内併行期では少ないものの40～70°未満と後期よりも高めの傾向を示す。
- ・主軸方位の傾向は、後期・庄内併行期ともに北西を主軸とするものが多い、後期では20～80°、庄内併行期では40～70°に集中する。

- ・主柱穴の本数は、後期・庄内併行期のいずれも4本が主流である。
- ・後期・庄内併行期を通じて、鶴見川水系に多く住居が分布する。
- ・炉跡は後期・庄内併行期を通じて地床炉が大半を占める。後期では1軒に複数の炉跡を有する住居が77軒、庄内併行期では11件存在する。後期では1軒の住居に2~7基と幅があるが、庄内併行期では2基もしくは3基となる。前回行った川崎市の集成と同様に、朝光寺原式土器を伴う住居（平面形態が隅丸（長）方形で複数基の炉を有する点）と東京湾沿岸系土器を伴う住居（平面形態が楕円または隅丸（長）方形が多く、単基の炉を有する点）の違いが指摘されているが、今回も上記の特徴を反映しているのであろう。
- ・住居の拡張は後期・庄内併行期で数軒の事例が確認されており、そのうち2回以上の拡張が行われている住居が存在する。
- ・焼失住居は後期および庄内併行期に、確認されている。明神台北遺跡、E5遺跡、北川貝塚、No.17遺跡、八幡山遺跡、北側表の上遺跡では一つの遺跡から2~9軒見つかっている。庄内併行期では北側表の上遺跡において集中して見つかっている。
- ・後期における出土遺物で特徴的なものとして、ミニチュア土器、手焙形土器、塊、甌、剥片穂摘具・有頭石錐、横刃型石器、軽石、土製紡錘車、土製勾玉、土玉、土製円盤、土錐、ボタン状土製品、鉄斧、鉄鎌、刀子、釘、棒状鉄器、ガラス玉、勾玉、管玉が挙げられる。庄内併行期では、軽石、鉄滓、銅鎌、土製勾玉、土玉、土製円盤、土器片錐、ガラス玉が挙げられる。

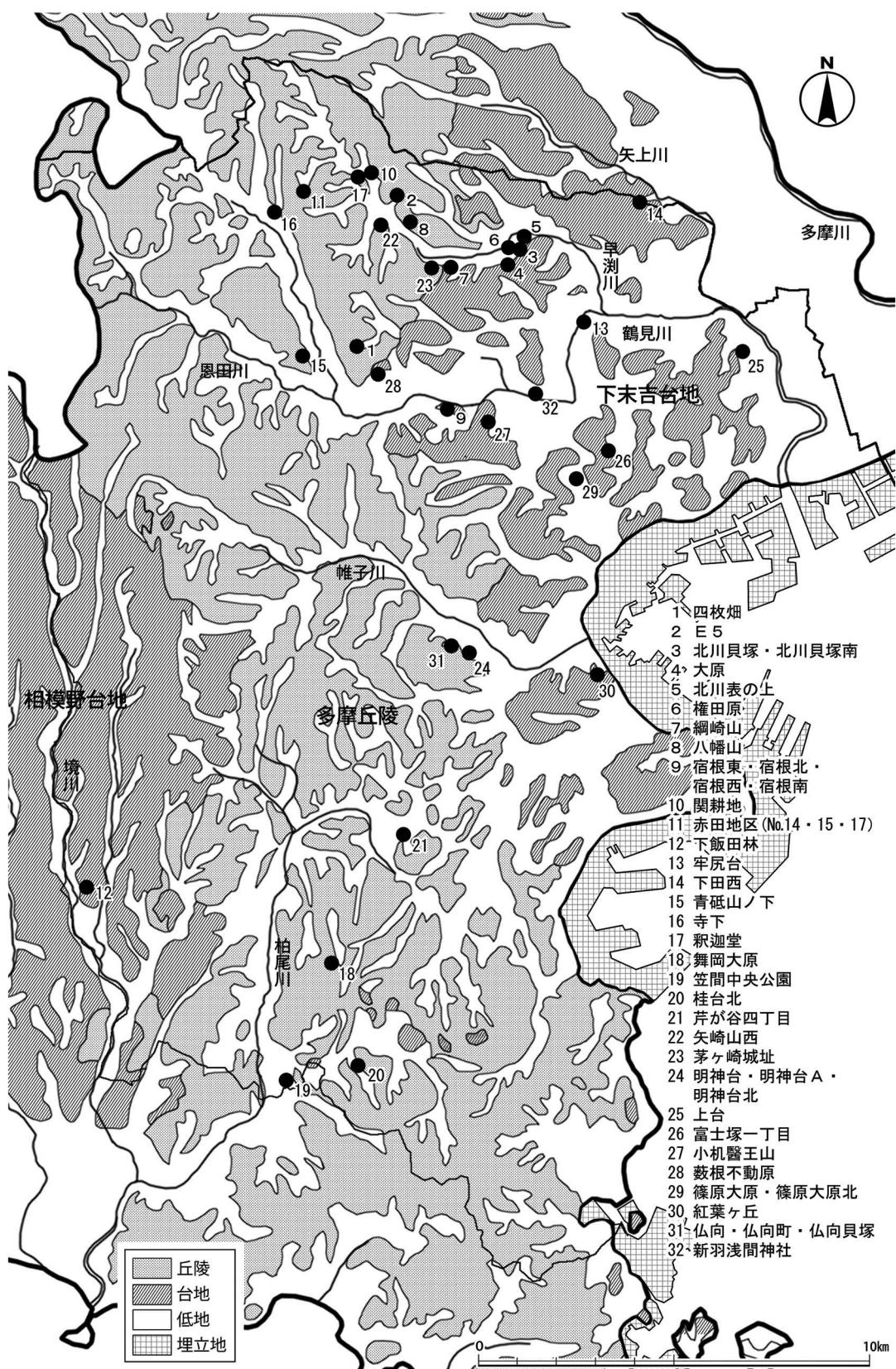
おわりに

今回は横浜市における堅穴住居の集成と分析を行った。今後も神奈川県内における堅穴住居のデータベースの作成作業を継続する。県内各地域または市町村ごとの分析を行ったのち、過去に行った集成のデータを含めて総合的な分析・比較を行う予定である。

なお、今回横浜市の集成を行うにあたり、小机医王山遺跡について株式会社博通の宮田眞氏に情報提供いただいた。末筆ながら記して感謝申し上げます。

参考文献

- 弥生時代研究プロジェクトチーム 1994 「弥生時代堅穴住居の基礎的研究(1)」『神奈川の考古学の諸問題』 神奈川の考古学第4集 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 弥生時代研究プロジェクトチーム 1995 「弥生時代堅穴住居の基礎的研究(2)」『神奈川の考古学の諸問題』 神奈川の考古学第5集 神奈川県立埋蔵文化財センター

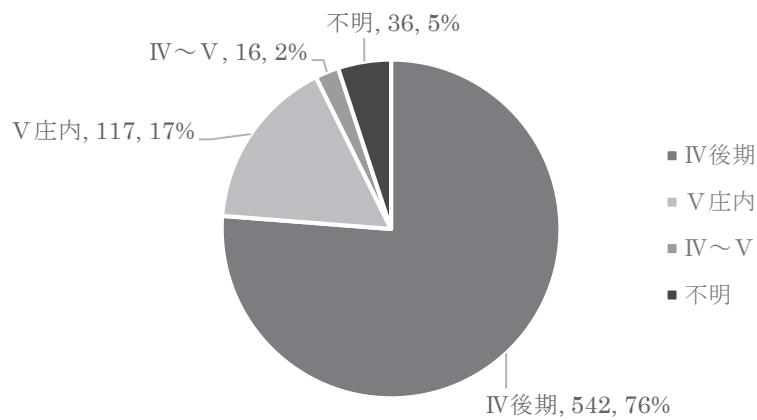


第1図 横浜市内対象遺跡分布図

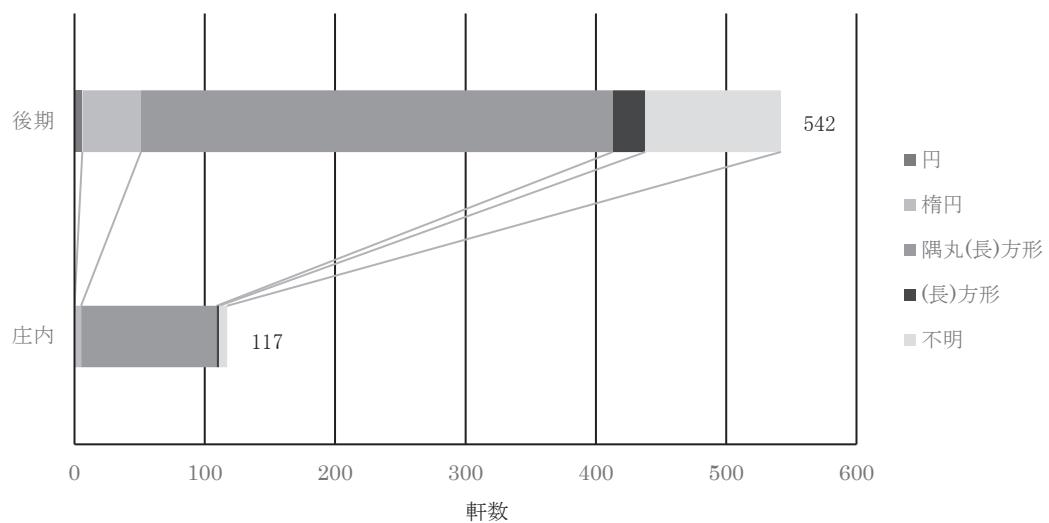
弥生時代後期堅穴住居の研究（3）

第1表 横浜市内における弥生時代の堅穴住居検出遺跡一覧表

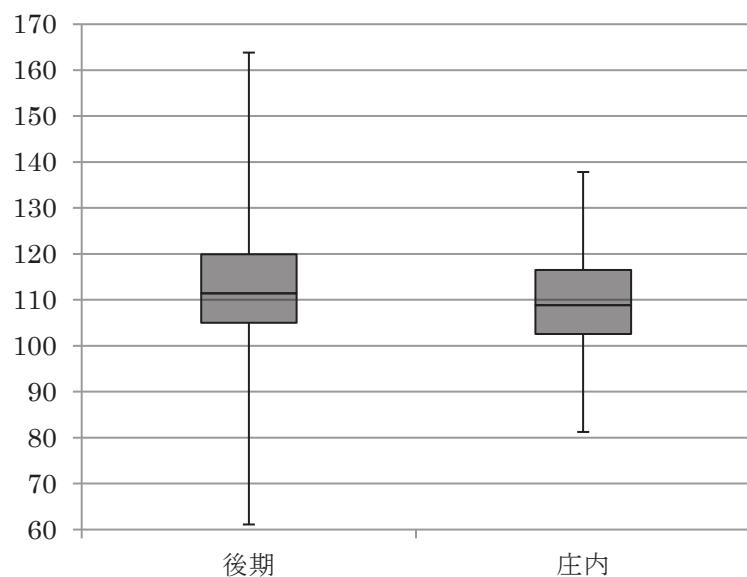
No.	遺跡名	軒数	刊行団体	刊行年	出典
横浜市					
1	四枚畠	13	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2003	『四枚畠遺跡・川和向原遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告32
2	E5	40	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2001	『E5遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告27
3	北川貝塚	51	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2007	『北川貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告39
	北川貝塚南	9	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	1997	『豊屋の上遺跡・西谷戸の上遺跡・北川貝塚南遺跡』
4	大原	44	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2011	『大原遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告44
5	北川表の上	90	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2009	『北川表の上遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告42
6	権田原	11	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2014	『権田原遺跡III弥生時代後期～古墳時代前期編』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告47
7	綱崎山	3	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2004	『綱崎山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告36
8	八幡山	31	財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会	2002	『八幡山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告31
9	宿根東	8	大成エンジニアリング	2012	『宿根東遺跡一小机町2番1地点-』
	宿根北	23	宿根北遺跡発掘調査団	1997	『宿根北遺跡発掘調査報告書』
	宿根西	7	宿根西遺跡発掘調査団	1999	『宿根西遺跡発掘調査報告書』
	宿根南	2	宿根南遺跡発掘調査団	1999	『宿根南遺跡発掘調査報告書』
10	閑耕地	49	観福寺北遺跡発掘調査団	1997	『観福寺北遺跡群 閑耕地遺跡』
11	赤田地区	23	日本窯業史研究所	1998	『横浜市青葉区赤田地区遺跡群集落編II』
12	下飯田林	20	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	1997	『下飯田林・中ノ宮・草木遺跡発掘調査報告』
13	牢尻台	38	牢尻台遺跡調査団	1991	『横浜市港北区牢尻台遺跡埋蔵文化財本調査概要』
	牢尻台	8	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	1999	『牢尻台遺跡発掘調査報告』
	牢尻台	2	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	2003	『牢尻台遺跡(防火水槽設置地点)発掘調査報告』
14	下田西	2	下田西遺跡発掘調査団	2002	『下田西遺跡発掘調査報告書』
15	青砥山ノ下	1	山ノ下遺跡発掘調査団	2002	『青砥山ノ下遺跡』
16	寺下	5	日本窯業史研究所	2003	『寺下遺跡』
17	积迦堂	5	日本窯業史研究所	2003	『积迦堂遺跡2地区』
18	舞岡大原	13	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	2004	『西見谷西遺跡・北川貝塚南遺跡舞岡大原遺跡発掘調査報告』
19	笠間中央公園	13	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	2003	『笠間中央公園遺跡発掘調査報告』
20	桂台北	2	桂台北遺跡発掘調査団	2004	『桂台北遺跡発掘調査報告書』
21	芹が谷四丁目	34	株式会社盤古堂	2006	『芹が谷四丁目遺跡-第1・2地点-』
22	矢崎山西	17	山武考古学研究所	2004	『矢崎山西遺跡』
23	茅ヶ崎城址	1	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	2006	『茅ヶ崎城址埋蔵文化財本発掘調査報告』
24	明神台	15	財団法人かながわ考古学財団	2006	『明神台遺跡・明神台北遺跡』かながわ考古学財団調査報告192
	明神台A地区	22	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	2006	『明神台遺跡A地区本発掘調査報告』
	明神台北	24	財団法人かながわ考古学財団	2006	『明神台遺跡・明神台北遺跡』かながわ考古学財団調査報告192
25	上台	3	玉川文化財研究所	2007	『上台遺跡(上末吉一丁目954番1所在)発掘調査報告書』
26	富士塚一丁目	1	玉川文化財研究所	2008	『富士塚一丁目遺跡発掘調査報告書』
27	小机醫王山	3	小机醫王山遺跡発掘調査団	1997	『小机醫王山遺跡発掘調査報告書』
28	藪根不動原	1	藪根不動原遺跡発掘調査団	2007	『藪根不動原遺跡発掘調査報告書』
29	篠原大原	1	財団法人かながわ考古学財団	2004	『篠原大原遺跡』かながわ考古学財団調査報告175
	篠原大原北	1	(有)吾妻考古学研究所	2007	『篠原大原北遺跡』
30	紅葉ヶ丘	1	財団法人かながわ考古学財団	2005	『紅葉ヶ丘遺跡』かながわ考古学財団調査報告179
31	仏向	4	株式会社盤古堂	2012	『仏向遺跡』
	仏向・仏向貝塚	29	財団法人かながわ考古学財団	2012	『仏向貝塚・仏向遺跡・仏向町遺跡』かながわ考古学財団調査報告279
32	新羽浅間神社	5	公益財団法人かながわ考古学財団	2013	『新羽浅間神社遺跡』かながわ考古学財団調査報告293



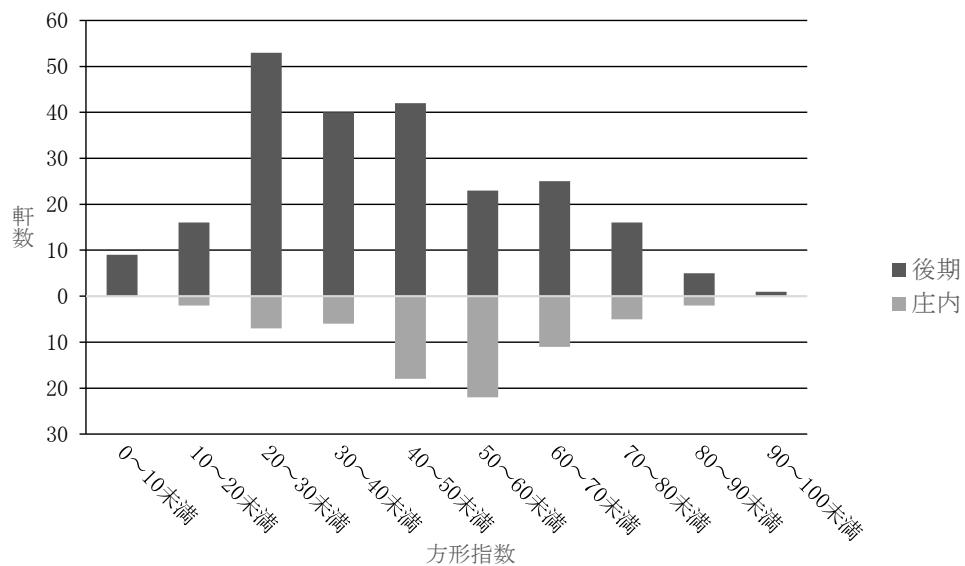
第2図 時期別住居軒数



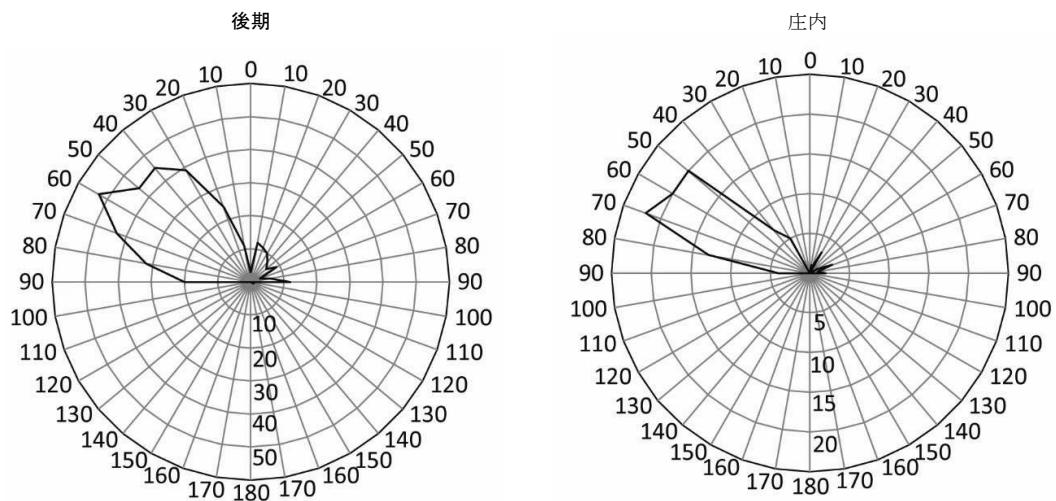
第3図 住居平面形態



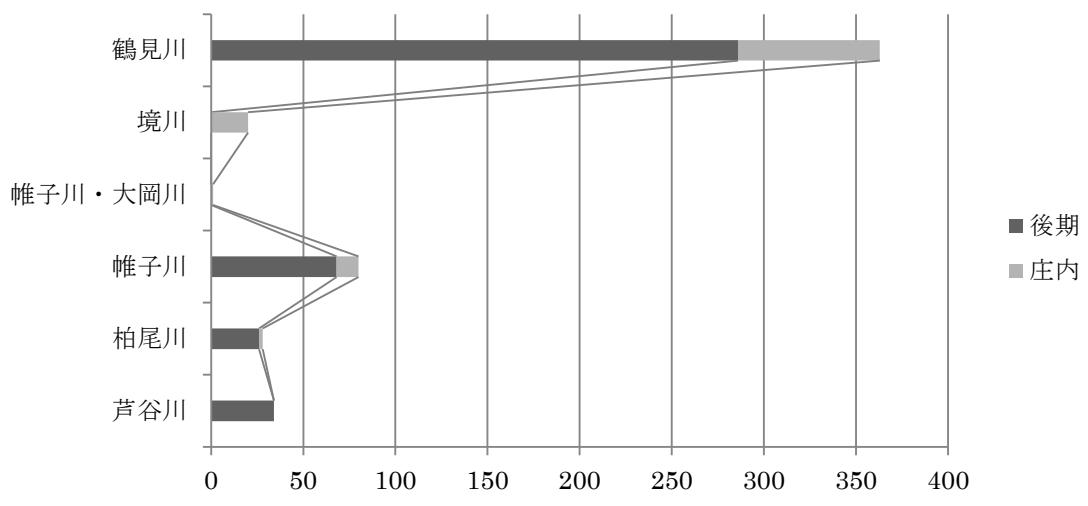
第4図 長短率



第5図 方形指数分布



第6図 主軸方位分布



第7図 水系別住居軒数

第3表 炉跡形態

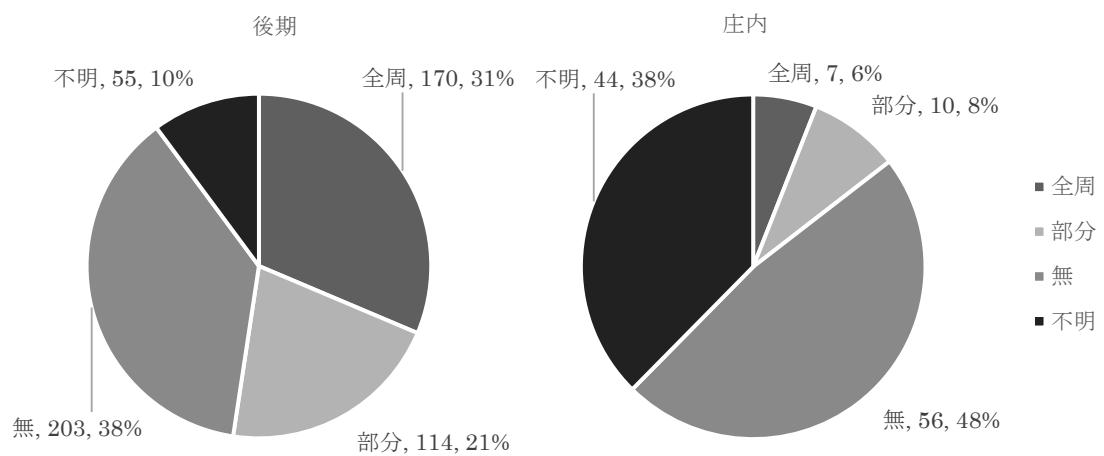
後期	種別	軒数	確認数/確認総数 (%)	確認数/住居総軒数 (%)
	地床炉	338	93.4	62.4
	枕石炉	16	4.4	3.0
	枕粘土炉	7	1.9	1.3
	粘土板炉	1	0.3	0.2
	小計	362	100.0	66.8

庄内	種別	軒数	確認数/確認総数 (%)	確認数/住居総軒数 (%)
	地床炉	84	90.3	71.8
	枕石炉	8	8.6	6.8
	その他	1	1.1	0.9
	小計	93	100.0	79.5

第4表 主柱穴本数

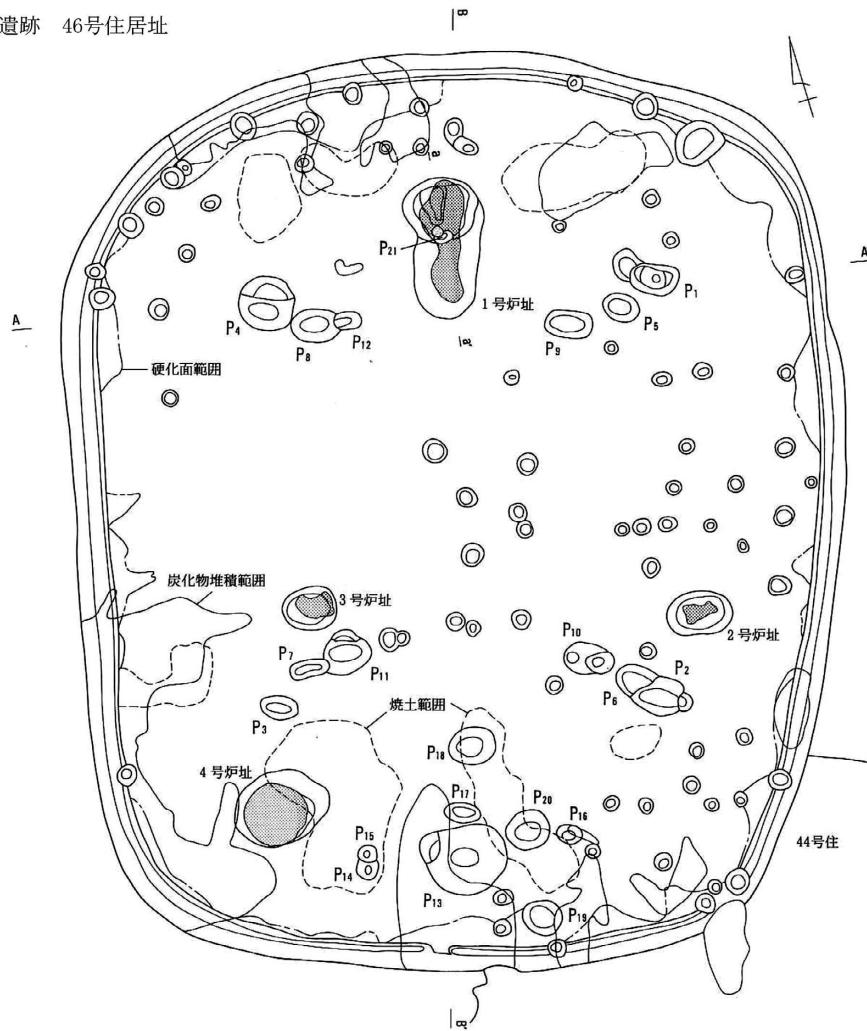
後期	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数 (%)	確認数/住居総軒数 (%)
	1本	4	1.4	0.7
	2本	6	2.2	1.1
	3本	1	0.4	0.2
	4本	275	98.9	50.7
	5本	1	0.4	0.2
	6本	2	0.7	0.4
	小計	278	100.0	

庄内	主柱穴数	軒数	割合 (%)	確認数/住居総軒数 (%)
	1本	5	4.6	4.3
	3本	1	0.9	0.9
	4本	103	94.5	88.0
	小計	109	100.0	

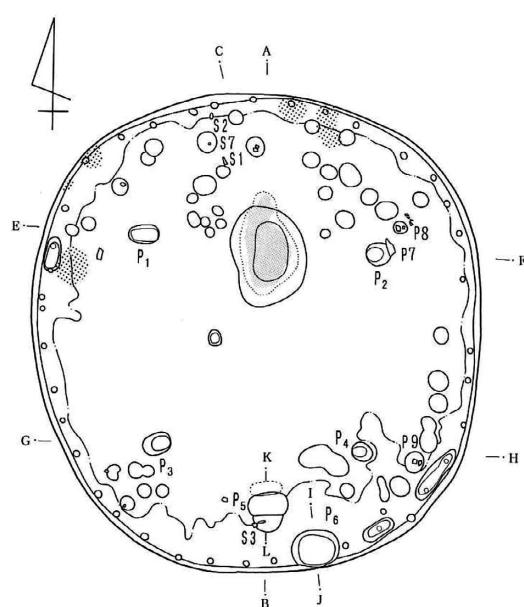


第8図 周溝の有無

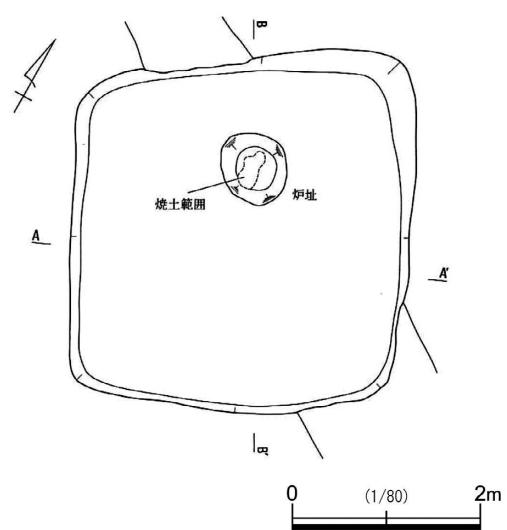
関耕地遺跡 46号住居址



四枚畠遺跡 Y-3号住居址

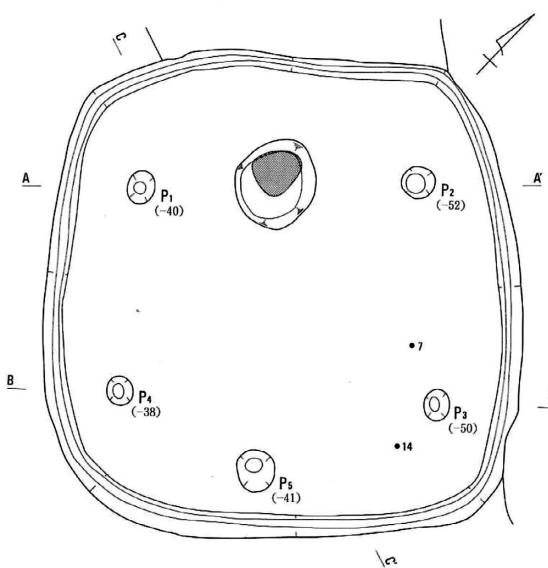


宿根西遺跡 Y-1号住居址

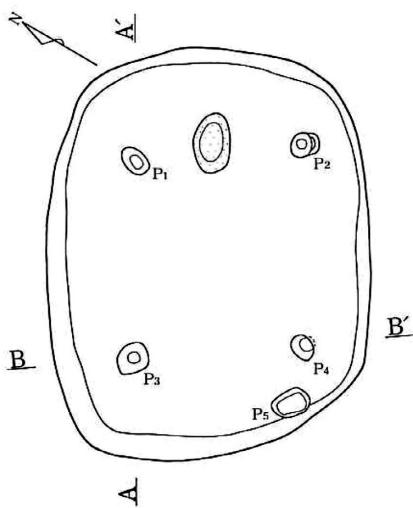


第9図 堅穴住居跡平面図（1）

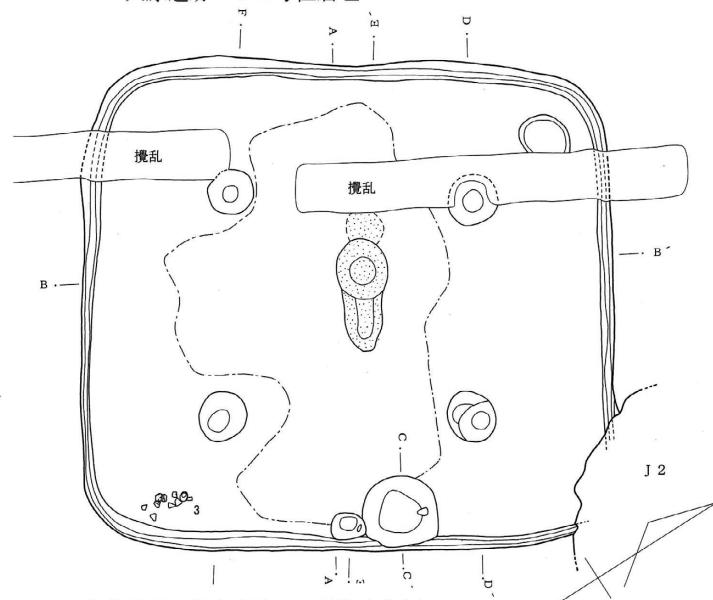
宿根北遺跡 Y-16号住居址



赤田地区遺跡群No.14遺跡 Y T-3

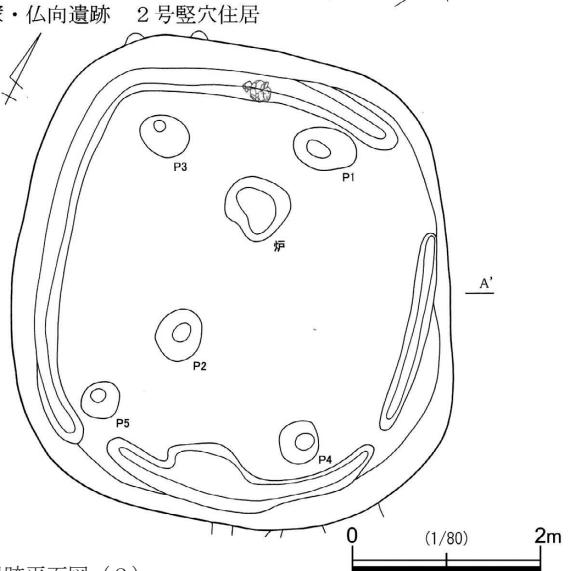
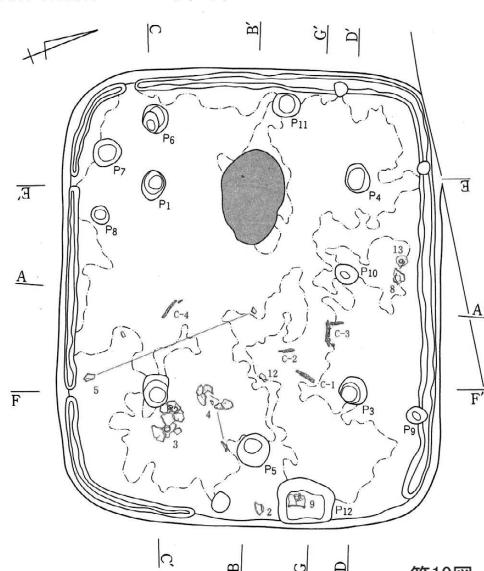


大原遺跡 Y 16号住居址

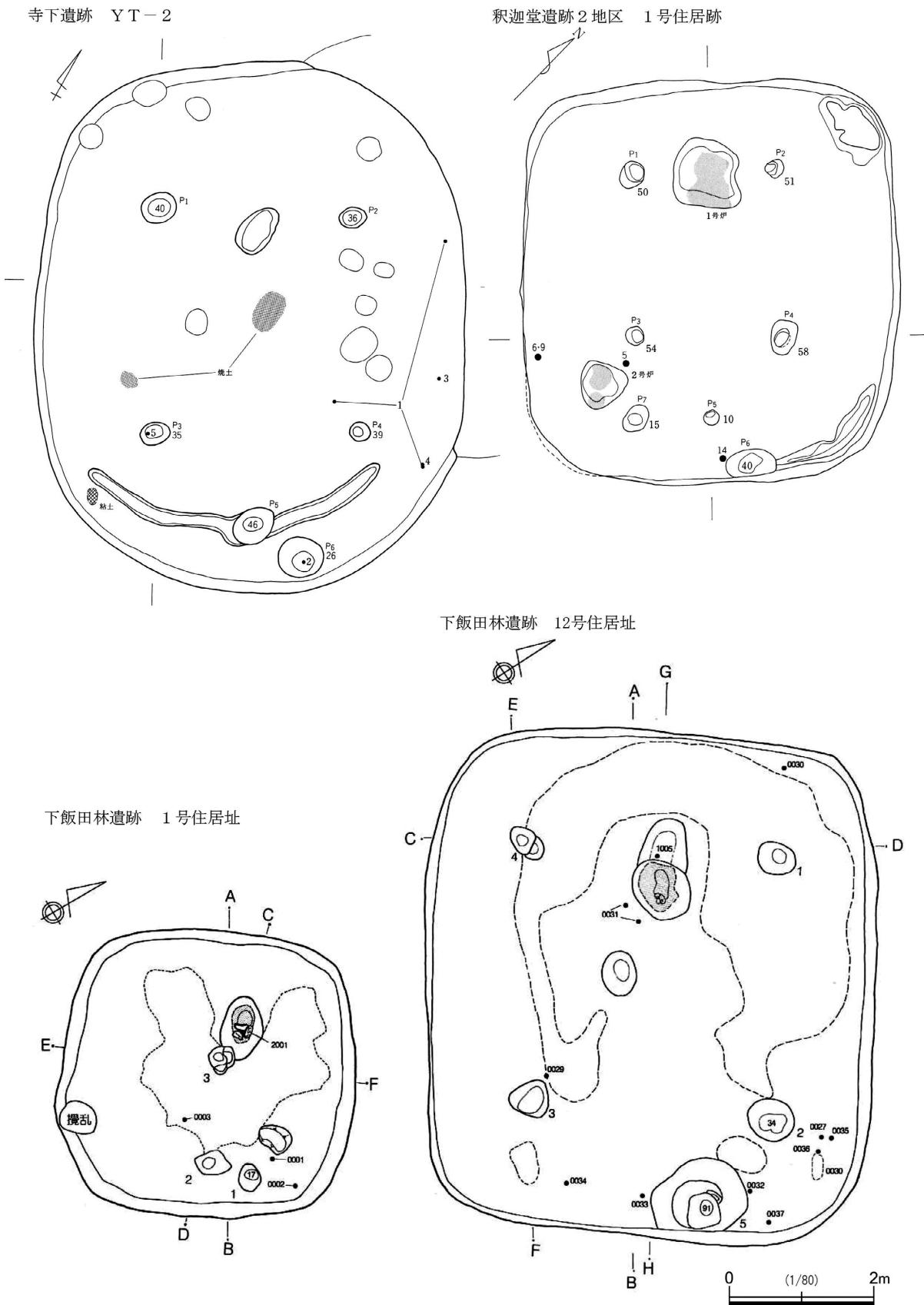


大原遺跡 Y 33号住居址

伊向貝塚・伊向遺跡 2号竪穴住居



第10図 竪穴住居跡平面図 (2)



第11図 堅穴住居跡平面図（3）